

職域・家庭から医療機関への架け橋 「健診機関」

健診は、肝炎ウイルスの受検・受診・受療をしていない人、医療機関から離れてしまった人を地域や職域から医療機関へつなげることができる場です！

症状がない…

費用が心配…

検査が不安…

時間がない…



精密検査には
行かれましたか？



健診機関には多職種がいます！連携でつなげていきましょう！

医師、保健師、看護師、栄養士、運動指導士、臨床心理士、放射線技師、
臨床検査技師、事務、営業、運転手など

＼ 健診機関ではこんなお仕事をしています！ /

- ① 健診業務…住民健診、企業健診、人間ドックなどの健診業務を担っています。自施設の健診施設で行うこともあれば、バスなどで巡回健診を行うこともあります。
- ② 産業医活動…産業医活動の中で、企業や労働者に向けて肝炎ウイルス検査の重要性を伝えたり、相談に応じることがあります。
- ③ 特定保健指導、事後指導…特定保健指導や健診結果に合わせた事後指導を行います（全員が対象とは限らず、企業などとの契約によります）
- ④ 健康についての講話…企業の安全衛生委員会や社内教育などで、健康についての講話をする際、肝臓の話（肝炎ウイルス検査の受検勧奨など）をトピックスに入れることがあります。
- ⑤ 企業への提案・契約…企業などに健康診断を提案し、ニーズがあれば契約を行います。肝炎ウイルス検査は労働安全衛生法の必須項目に入っていないませんが、オプションとして実施できることを説明し、提案することがあります。

健診機関の肝Co 活動事例

はじめての
第一歩!

検査結果をきっかけに
肝機能が気になる人に声をかける！



<声かけのタイミング>

- ・ 健診の受付や問診中に
- ・ 健診結果に気になる点があるとき
- ・ 保健指導のとき
(生活習慣病に関連して肝臓の話も)



自己中断している患者さんや肝炎ウイルス検査
未受検、未受診者を見つけることにつながります！

声かけの際は、声の大きさなど周りに聞こえないよう配慮しましょう！

どんなアプローチをしていますか？



受付で肝炎ウイルス検査を受けたことがあるかをお聞きして、受けていない方には検査を勧めます！

肝疾患専門病院の受診を勧めるだけなら活動のハードルは低いですね。
拠点病院の相談窓口をよく紹介しています。

問診時に、受診や受療、定期検査を中断してしまっているなどの情報を得たら、肝臓専門医を受診するよう勧めています。



C型肝炎ウイルスのインターフェロン治療でうまくいかなかった人は、副作用の少ない新しい飲み薬があることを伝えることで、治療の再開のための受診を勧めやすくなります。



医療機関の併設の健診機関なので、肝炎ウイルス検査が陽性の場合、検査室からすぐに健診機関へ通知が来るようになっています。その日の診察時に医師から必ず説明してもらいます。その後、精密検査の予約を取るか、自宅近くの肝臓専門医を紹介しています。

人間ドックの方は健康意識が高く、比較的時間の余裕があるので、当日の結果説明時に肝炎についてのお話がしやすいですね。





こんな活動も！

仕事の延長線上でできる活動がたくさんあります！

ホップ★

ポスターやチラシでPR

健診会場に肝炎に関するポスターを貼ったり、事前問診や健診結果に肝炎に関するチラシを封入することでPRしましょう！

肝炎ウイルス検査を勧める！！

健診は、肝炎ウイルス検査を受けられる絶好の機会です！このチャンスを逃さないように未受検者には検査を勧めてみましょう！健保組合や自治体が、肝炎ウイルス検査費用を負担している場合もあります。是非活用してみてください。

肝臓専門医のいる医療機関リストを用意する

健診結果から精密検査へつなげる際は、肝臓専門医の一覧を用意しておくで自宅近くの専門医を紹介でき、便利です。専門医の一覧は学会のホームページや肝疾患連携拠点病院から情報を得ることができます。

ポスターやチラシは文字が少なく目を引くデザインを！



ステップ★★

受診勧奨の電話をする

肝炎ウイルス検査結果の通知は個人に送られます。受診されていない方に対し、電話をして受診へつなげる活動をしている施設もあります。

ジャンプ★★★

企業へ啓発をする

企業に訪問する際に、啓発の機会を見つけましょう！安全衛生委員会など、肝炎について話せる場があるかもしれません。



企業の担当者に対して「肝炎ウイルス検査の陽性者が精密検査を受けられる組織づくり」について話をしてみてもいい？
肝炎の正しい知識を伝えることは偏見差別の防止にもつながると思います。

地域の保健師と情報共有する

住民健診では、市町村の保健師と連携できると、地域での働きかけができるようになります！



先輩肝Coからのアドバイス

陽性者が毎年健診を受けるからこそ
繰り返しアプローチできます！！



精密検査は
受けましたか？

あ！忘れていました。
必ず受けます！



直接お話をして、検査の意味や受診の必要性を理解してもらいましょう！

繰り返しのアプローチで受診につながることもあります。受診までのステップを詳しく説明することで、受診につながりやすくなります。

特に肝Coの研修を受けてほしい職種



事務職

受付担当の方は、ぜひ肝Coの研修を受けてほしいです。

なぜなら「肝炎ウイルス検査を受けるか／受けないか」の最初の声かけに関わってくるからです。

事務の管理職に肝Coの研修を受けてもらえると、他の事務スタッフにも肝Coの研修を勧めやすくなるかもしれませんね！



営業職

営業スタッフには、肝炎ウイルス検査の重要性をよく理解した上で、企業の担当者に健診項目への追加を提案してもらいたいです。肝Coの研修を受けると、より説得力も増します。

健診機関は職域・地域から医療機関へつなぐ架け橋であり、肝Co活動のチャンスが多い場所です。

健診機関で働く人すべてに肝Coの研修を受けてほしいです！



健診機関内で肝Co仲間を増やして、みんなで楽しく活動しましょう！